

豊富な地下資源に触れる



模型を見ながら石油掘掘システムを取材

さきがけ動画

■使い方29面

高い鉱業技術力に感心

秋田の魅力発信



秋田魁新報社「秋田の魅力発信」編集長の佐々木希さんが秋田市の秋田大鉱業博物館を取材、本県の誇る豊富な地下資源や、その資源を産業化して日本の近代化に貢献した本県鉱業の技術力について理解を深めた。

国内最大規模の500種、2200点の鉱物が展示された館内を案内し

たのは博物館長の今井忠男・同大国際資源学教授



質感に注目し大きな黒鉱の撮影

「地球上の生き物以外ほぼ全てが鉱物なのです。金属など人に役立つ物が結晶になっていまして」と説明し、手始めに高さ1メートルを超える大きな紫水晶の標本を紹介。希編集長は美しい紫色に輝く結晶に触って感触を確かめながら「きれいなだけではなくて、貴重なんですね」と興味深げに見入った。

ハート形で黄色に輝く鉱石や、暗闇で光る鉱石など、特徴的な標本を見て回った希編集長の目に留まったのは大きな黒鉱標本。「さまざまな金属を高濃度に含む黒鉱の中でも本県産の品質は高く、日本の近代化や高度成長に資するところが大きか

った」との今井館長の説明にうなずき、黒鉱特有の質感を捉えようとシャッターを切っていた。

黒鉱と並ぶ本県の有用な地下資源である石油については、秋田市の八橋油田はかつて生産量が日本一を誇るなど、本県が新潟と並ぶ日本トップクラスの産油県であったことを取材。ロータリー式石油採掘機の模型を見学しながら採油のシステムについて説明を受け、豊富な資源を発展に結び付けた本県の高い技術力に感心していた。

希 eye



これが近代化の支えになった品質の高い黒鉱です



鉱業博物館のらせん階段。アンモナイトの渦をモチーフにしたそうです



感触を確かめながら大きな紫水晶に見入る希編集長

「秋田の魅力発信」
佐々木希編集長

「大好きな秋田のために何かをしたい」という佐々木希さんの思いを受けた秋田魁新報社が、希さんの発信力を生かして県内外に秋田の魅力を広げてもらうべく「秋田の魅力発信」編集長就任を提案。2017年11月に編集長を委嘱した。県内各地を訪ねてもらい、魅力的な特産品の数々や、教育・農業の現場などを取材。内容は秋田魁新報に掲載するほか、取材している様子の動画を同紙電子版などで配信する。

今回は4月10日掲載

出すために、秋田で高い技術力が磨かれていったという、産業の歩みも注目されますね。

秋田市内の所々で、アームが動いている油井ポンプを見かけたことはありますが、秋田が国内屈指の石油生産県で、特に八橋油田が産出量日本一だったことには驚きました。

現在、県内で産出される石油はごくごくわずかで、私たちが使用しているほとんどは中東産とのことです。秋田の地下資源の豊かさがかえらるエピソードですね。こうしたポンプが今も稼働している地域というのは国内でも珍しいのではないのでしょうか。まるでシーラカンスのような存在。"生きている近代化遺産。"とも言えるのかもしれないですね。

(佐々木希編集長)

秋田の宝
みつけた!!

国内最大規模の鉱物コレクションを誇る鉱業博物館の展示に触れ充実した時間を過ごすことができました。また、秋田県が鉱石や石油などの地下資源に恵まれ、この資源を先進的な技術によって産業の発展に結び付けてきたことを知り秋田の底力を感じました。

昔は単なる石として扱われていたものから、生活に役立つ金属を取り出すことができるようになったのは、人間の技術の進歩だったということも改めて実感できました。

県内の鉱山で産出された黒鉱は品質が良いそうですが、そこから銅などの貴重な金属を取り